

新連載!!



・・・連載開始にあたり・・・

今月号から新連載がスタートします。これは、石狩市出身で新規就農者である遊佐さんが農業者になるまでのエピソードや日頃農業に携わっている中で感じたことなどを皆さんに是非お伝えしたく企画しました。

一、はじめに

平成29年10月29日、花畔宮農地
域開発組合の秋季排水掃除のときのことでした。普段あまりお目にかかれない先輩農業者の方々から「あなたが新規就農の遊佐さんかい。ええっ 来年還暦かい? いやあ、若い人が来てくれてよかったア。。。」と声をかけていただきました。

私は陸上自衛隊を3年前に定年退官しましたが、なんと定年した自分が若いと言われるなどは、全く夢にも思わないことでした。どうやら石狩市花畔地区の第一線農業者の平均年齢は70歳前後のようので、私はひと回り若いことになりました。いわゆる、若造・還暦おやじなわけですが、これから新人農業者としての取り組みや苦労等について、人生の初心にかえったつもりで紹介させていただきたいと思えます。

二、きっかけ

こんな若造・還暦おやじの私がどうして農業者になったのか? まずは、農業者を目指したきっかけについてお話ししましょう。

平成18年夏。私は、福岡県飯塚駐屯地の第2施設群という部隊で勤務しておりました。当時、第2施設群は筑豊(ちくほう)地域の一部の市町を警備分區として、いざという時に出勤できるべく、平素から市長さんや町長さんとの連絡を密にして有事に備えた教育訓練に励んでいました。また、私にとつて初めての九州勤務であったため、地域の状況を早急に把握したいと考え、よく地域内をみて歩いておりました。

ある時、桂川(けいせん)町というところで合鴨農法を実践し、とれた米から酒を造り、太らせた合鴨を肴に晩酌を楽しむ農家があることを知りました。できた清酒が一鳥万宝(いちちようばんぼう)という名前で、「合鴨農法・無農薬米使用」と書かれていました。酒の名前について次のような説明がありました。「合鴨を水田に放すと、悪者であったはずの雑草や害虫はアイガモの餌となり、肉となります。又、糞は稲の養分となり、ついには米となります。つまり人間にとって有り難い資源となります。それは、一石二鳥ではなく、一鳥万宝の世界なのです。。。。」と。こうしてできた無農薬米で醸造されたのがこの酒でした。

これだ!! 将来自衛隊を定年したら合鴨農法をやってみよう。そう思ったのが現在の新人農業者へのきっかけとなりました。

その後、再び防衛省勤務となり、平成20年の8月に夏休みで石狩に帰省した際、さっそく行動を起こすことにしました。妻と二人で自転車に乗って休耕している田んぼを探し歩いたのです。自宅から近い生振地区でした。当時世間では耕作放棄地のニュースが多く、本州や九州では新たに農家になった人たちのことが頻りに報じられていたこともあって、定年後は石狩にリターンして農家になるうと漠然と考え始めていたのです。しかし、どこも青々とした稲が成育しており、休耕している田んぼなど見つかりそうにありません。

翌日、今度は方針を変更して役所を訪ねることにしました。農業委員会という組織があることを誰かから教えてもらい相談することにしたのです。私の第一声は、「合鴨農法というのをやりたいのですが、石狩市内にどこか使われていない田んぼはありませんか?」でした。私の唐突な質問に対して、農業委員会事務局の担当の方が丁寧に対応してくれました。最初の質問はこうでした。
「あなたは農地法第3条のことはご存じですか?」
「私は現職の自衛官ですので、自衛隊法のことなら知っています。。。。」



「農地法ではだれもが農地を持つるわけではありません。まずは農家になる必要があります。」
「どうすれば農家になれるのですか?」
「というようなり取りの末、紹介されたのが石狩市農業総合支援センターでした。」

さっそく訪ねたところ、担当者から、この辺では誰も合鴨農法をやっていないことをはじめ、農家になるならば施設栽培でミニトマトに取り組んではどうか等々懇切な説明と、将来農業研修が必要であることなどのアドバイスをいただきました。この時の夏休みが終わりました。定年になる6年前のことでした。(次号に続く)

(平成29年12月1日記)

